

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年6月7日

【評価実施概要】

事業所番号	1070200918
法人名	社会福祉法人 タービュランス福祉会
事業所名	城南やすらぎの家
所在地	群馬県高崎市石原町3348 (電話) 027-327-5338

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年3月15日

【情報提供票より】(20年 2月 27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算	7.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	又は1日800円		

(4) 利用者の概要(2月 27日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	76歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	浅見内科医院・こだまクリニック
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、幹線道路に面した住宅街にある木造平屋建てで、街の景観によく馴染んでいる。交通の往来が頻繁な場所にもかかわらず、騒音は気にならない。ホーム内の生活空間は明るく、家庭的で清潔が保たれ気持ち良く生活できるよう配慮されている。入居者に対する職員の丁寧な言葉かけと対応、支援には信頼性と安心感があり、入居者も穏やかに過している。管理者と職員の意見交換も活発であり、ケアプランにも反映されている。また、地域密着型サービスの役割については、ホームとしての方向性もあり、全職員との共有化がされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の結果を踏まえて、職員間で相談して、入居者の安全に配慮して、包丁・はさみ・洗剤の保管方法を変える等改善に着手している。入居者と共に食事をする事に関しては、「ケアに専念する」という法人の方針を重視して対応している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は、サービス評価の意義や目的を職員に伝え、全員で積極的にサービスの質の向上に努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、ホームの様子やホームの各種委員会から報告が行われている。また、2家族が順番で出席している。会議での意見は、ホームの会議等で反映できるよう話し合っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居者の暮らしぶりやエピソード、職員の異動等について広報「ほっとにゆうす」を3ヶ月に1回発行し、家族と運営推進会議委員に配布し知らせている。家族等の意見や苦情を反映すべく意見箱を、玄関に設置している。また、運営推進会議に家族に順番に参加してもらい、会議での意見等をホーム内の会議で話し合っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会の納涼祭や花火大会に、入居者と一緒に参加している。地域のボランティアサークルの踊り・アコーディオン演奏や高校生のボランティアの訪問活動を通じて地域との交流を図っている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体施設の理念に基づき、職員会議等で地域密着型サービスの役割を反映したホーム独自の理念をつくり上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲示している。また、日々の介護場面や月2回のケア会議・委員会活動等で、管理者と職員間で意見交換を活発に図り、理念の共有化がされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の納涼祭や花火大会に、入居者と一緒に参加している。地域のボランティアサークルの踊り・アコーディオン演奏や高校生のボランティアの訪問活動を通じて地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価の結果を踏まえて、職員間で相談して、入居者の安全に配慮して、包丁・はさみ・洗剤の保管方法を変える等改善に着手している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの様子やホームの各種委員会から報告が行われている。また、2家族が順番で出席している。会議での意見は、ホームの会議等で反映できるよう話し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の事業である介護相談員の訪問活動を、毎月2名受け入れ、入居者との交流や意見交換を行いケアの向上に努めている。また、市担当者には、ホームの行事を案内し、参加を呼びかけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりやエピソード、職員の異動等は、広報「ほっとにゆうす」を3ヶ月に1回発行し、家族と運営推進会議委員に配布し知らせている。また、金銭管理は、随時見ていただき確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見・苦情を反映すべく意見箱を玄関に設置している。また、運営推進会議に家族に順番に参加してもらい、会議での意見等をホームの会議等で反映できるように話し合っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホールに新入職員のコメント入りの少し大きめの顔写真を掲示し、異動等により配置された職員が、入居者と早く馴染みの関係を保てるよう工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、法人内外の研修を段階的に確保し、職員育成に努力している。また、職員の自主的学習にも協力的で、研修報告会は定めていないが、毎月のケア会議等で活かしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内の他のグループホームとの研修会を実施しながら、サービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者や家族と面談をしたり、ホームの見学等を体験していただき、徐々に馴染めるよう家族と相談している。担当の介護支援専門員の情報やサービス計画を参考に、入居者の視点での対応を大切にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者の得意分野を活かして、入居者に雑巾縫いや料理の準備等をお願いしながら共に過ごし、指導を受け学び支え合う関係づくりに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、入居者一人ひとりの言動を大切に捉え、本人の思いを知るために、家族だけでなく知人や親戚の方々にもお伺いする等意向の把握に努力をしている。	○	本人の視点に立って生活歴や長年馴染んできた生活スタイル等も参考に、生活を支える為のアセスメントを期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、入居者と家族の意向、主治医からの助言・指導を考慮して作成している。担当の職員との情報交換も綿密に図られ、関係者の意見が反映されている。また、担当職員による個別援助計画を作成し、入居者・家族からの承諾をいただいている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に2回のケア会議では、介護支援専門員が入居者一人ひとりの計画を提示して、職員全体で協議し介護計画の見直しを行なっている。家族の面会時や電話で、承認していただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の状況に応じて、通院や買い物、理容店への送迎や付き添い等、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前のかかりつけ医の受診支援を行っており、家族の付き添いが不可能な時は職員が代行している。また、入居者が体調不良の場合は、ホームの協力医院の往診が可能である旨を説明し、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	急変時の対応や医療面が必要になった場合等は、家族に意向を伺っている。会議で、職員は緊急連絡網を周知している。また、母体組織法人との医療連携体制が確立されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報、事務所の扉のついた棚に保管されている。プライバシーの保護については、随時、職員に対して口頭で伝達している。	○	個人情報保護の理解や情報の漏洩防止、ケアにあたり留意すべきプライバシー保護の取り扱い等、法人としての考え方を具体的に明文化に努められることを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間やレクリエーションへの参加、外出等、可能な限り入居者の希望やペースに合わせ支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の得意な分野を活かしながら、職員と共に、野菜の収穫、調理の準備、テーブル拭き、食器の片付け等を行い、食事を楽しむ環境づくりを大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日でなくても、希望があれば、入浴の支援をしている。原則的には一人ずつの支援だが、本人の希望で気の合った同士で入浴することもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理好きや掃除の得意な人には家事を、絵や習字の得意な人には指導者として、その人の持っている力を活用できるよう、一人ひとりの役割を分担し支援している。また、毎月1回程度の外出行事を実施して気分転換を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩や買い物等、入居者が積極的に戸外に出るよう支援している。また、ドライブや同一法人内のグループホームへも遊びに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援しており、チャイム等に頼らないよう職員の見守りや連携によりケアにあたっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署に届けをして、年2回災害を想定した昼間の避難訓練を実施している。地域の協力体制については、運営推進会議で決定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を記録し、職員は情報を共有している。また、管理栄養士が、栄養バランスを考えて献立を作成している。食事量は、本人に合わせて支援している。水分摂取は、10時・15時にも行い、夕食後も声かけをして摂取できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、季節の草花を飾るなど生活感があり、家庭的な配置で、入居者にとって使いやすい環境となっている。昔の懐かしい音楽を流すなど、居心地の良い場を整えている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、使い慣れたベッドやタンスを配置したり、馴染みの品物等を活かし、その人らしく過ごせる部屋づくりに取り組んでいる。		